

研究領域名	環太平洋の環境文明史
領域代表者名	青山 和夫 (茨城大学・人文学部・教授)
研究期間	平成21年度～25年度

環太平洋の環境文明史を解明し、その歴史的教訓を探る

1. 本領域の目的

- ①環太平洋の非西洋型諸文明（メソアメリカ、アンデス、太平洋の島嶼、東南アジアなど）の盛衰に関する通時的比較研究を行う。
- ②環境史の精緻な記録である湖沼年縞堆積物（1年に1つ形成される「土の年輪」）を用いた環太平洋の環境システムの変遷史と諸文明史の因果関係を詳細に明らかにする。
- ③その歴史的教訓と今日的意義を探求する。

2. 本領域の内容

既存の学問分野の枠に収まらない新興・融合領域である環太平洋の環境文明史の創成を目指す。つまり文系でもない、理系でもない全く新しい歴史的知の枠組みを構築する、領域融合的な共同研究である。研究組織は、アメリカ大陸とアジア大陸の両方を包括する環太平洋の考古学、民俗動物学、歴史学、地理学、文化人類学、認知心理学、環境考古学、古環境科学、情報科学等、多様な分野の代表的な専門家から構成されている。このような文理融合的な学際研究は日本をはじめまだ世界に例がない。

3. 期待される成果

革新的・創造的な研究を推進し、国内外に重要な成果を発信することで、これまで西洋型文明を基軸に作られてきた人類史を再構成する上で大きな貢献が期待できる。この貢献は現代地球社会の諸問題解決の糸口を見出し、持続可能な発展を遂げていくための科学的知見に資するものである。

〔キーワード〕

環太平洋：アメリカ大陸とアジア大陸の両方を包括し、太平洋の周囲を取り巻く地域。
環境文明史：環境変動と諸文明の因果関係を科学的に解明する学問。

【科学研究費補助金審査部会における所見】

本研究領域は、環太平洋地域の環境史と文明史とを、文理融合的な学際研究を通して有機的に結合し、体系的な環境文明史を創成するという明確な目的を有している。日本において通説となっている「四大文明論」のような固定的な文明史観を払拭し、新大陸文明を含んだ新たな文明史像を描こうとする意欲的な研究領域である。本研究領域は、こうした新たな歴史像の確立のために、年縞という新たな実証的研究手法に着目し、より精緻な歴史的事実の検証を試みようとする点においても新学術領域研究（研究領域提案型）の趣旨に合致している。また、領域として研究を推進していくうえで必要となる計画研究の目的はいずれも明確であり、具体的な成果を蓄積していくことが十分期待できる。さらに、領域代表者の研究実績及び国際連携研究のマネジメント状況から、これらの計画研究の成果を的確に把握し、領域全体としての研究成果として体系化することは十分可能であり、環境文明史という新たな学問領域を、環太平洋地域を舞台にして確立していくことを期待させる。

環太平洋の環境文明史

環境史と文明史の精緻な比較研究から新しい歴史的知を構築する

環太平洋の非西洋型諸文明の盛衰の通時的研究

マヤ、アステカなど、
様々な文明が共生した
メソアメリカ文明



様々な社会群から統一
帝国に至ったアンデス
文明



狩猟採集社会から国家
に発展した西太平洋の
琉球島嶼文明



熱帯雨林で盛衰した古
代カンボジア文明

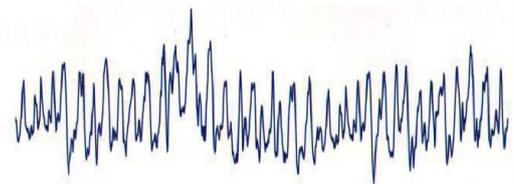
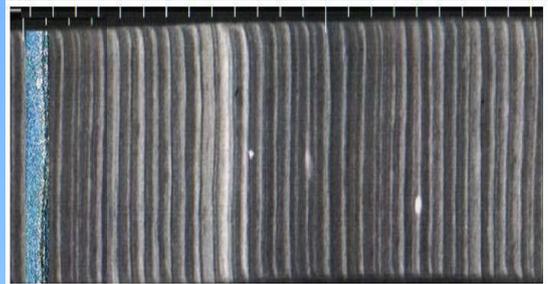


その他の環太平洋の文明・社会(公募研究)

文明はなぜ、どのように盛衰する
のか？
—非西洋型諸文明が歩んだ歴史
の解明

年縞による環太平洋の環境
史復元

湖沼に蓄積された“土の年
輪”による高精度で多様な
環境復元



環太平洋の環境はどのよう
に変遷したか？自然環境の
急変事件はいつ、どの程度
の規模であったか？

知見の統合

- ・ 環境史と文明史のアーカイブ統合と通時比較研究
- ・ 環境変動が過去の人類社会に与えたインパクトの解明

期待される学術的成果

- ・ 西洋中心的な文明史観ではない新しい歴史的知の構築
- ・ 環境文明史による歴史的教訓とその今日的意義の探究